

(別紙様式2)

授業科目等の概要

(教養・社会福祉専門課程介護福祉学科) 令和8年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			人間の尊厳と自立	人間の尊厳・尊厳と自立・尊厳保持と自立支援の実践・人権問題	1前	30	2	○	△		○		○		
○			人間関係とコミュニケーションA	人間関係を形成するために必要な心理学的支援を踏まえたコミュニケーションの意義や機能を理解	1前	30	2	○	△		○		○		
○			人間関係とコミュニケーションB	介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材の育成や活用などの人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップ等、チーム運営の基本の理解	2後	30	2	○	△		○		○		
○			社会の理解A	生活と福祉（家族・地域・ライフスタイル・生活支援と福祉体系等）・社会保障制度（社会保障制度の考え方・仕組み・機能・発達等）	2前	30	2	○			○		○		
○			社会の理解B	介護保険制度（背景・目的・仕組み・組織と役割等）障害者自立支援制度（概観・仕組み・組織と役割）介護実践における諸制度	2後	30	2	○			○		○		
○			生活に関わる数学統計処理	インターネットの活用・プレゼンテーションの活用・表計算の活用（作表・計算式・関数・グラフ応用等）	2後	30	2	○	△		○			○	
○			現代社会学入門	現代社会の基礎的問題を理解し、社会を見つめる感性や現代に生きる人間としての生き方について考える力を養う学習	2後	30	2	○	△		○			○	
○			社会保障関連制度入門	社会保障制度（理念・概要・範囲・機能・財政・課題等）年金制度、医療保険制度、介護保険制度、労働保険制度、社会保険制度等の現状と課題	2後	30	2	○			○		○		
○			介護の基本A1	介護の歴史、介護問題の背景・社会福祉士及び介護福祉士法・QOL及びノーモラライゼーションの考え方・介護サービスの概要	1前	30	2	○	△		○		○		
合計			9 科目		270単位時間(18単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
必修科目の単位を修得した者、全生徒が全科目を履修する	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教養・社会福祉専門課程介護福祉学科) 令和8年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			介護の基本A2	人間の多様性複雑性の理解・高齢者の暮らしの実際・障害のある人の暮らしの理解・介護を必要とする人の生活環境の理解	1前	30	2	○	△		○			○	
○			介護の基本B1	自立支援及び利用者主体・個別ケア、ICFその考え方と展開・リハビリテーションその考え方と実際・病院、施設、在宅におけるリハビリテーション・介護予防・専門職との連携	1後	30	2	○	△		○			○	
○			介護の基本B2	他職種との連携・地域との連携・介護従事者の倫理	1後	30	2	○	△		○			○	
○			介護の基本C1	介護における安全の確保・事故防止・安全対策・感染対策・健康管理の意義と目的・健康管理に必要な知識と技術・安心して働ける環境づくり	2前	30	2	○	△		○			○	
○			介護の基本C2	介護従事者の心身の健康管理、介護職のワークストレスとバーンアウト・介護職のストレスマネジメント・腰痛予防と対策	2後	30	2	○	△		○			○	
○			コミュニケーション技術A	介護におけるコミュニケーションその目的と意義と役割・コミュニケーションの技法(傾聴技法・質問技法)	1後	30	1	○	△		○			○	
○			コミュニケーション技術B	記録による情報の共有化・連絡、報告、相談の技術・カンファレンスの展開技術	2後	30	1	○	△		○			○	
○			生活支援技術A1	運動・移動の支援技術(車椅子の介助・歩行の介助)	1前	30	1	○	△		○			○	
○			生活支援技術A2	食事の支援技術(生活支援・自立に向けた移動の介助・自立に向けた食事の介護)	1前	30	1	○	△		○			○	
合計				9 科目		270単位時間(14 単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
必修科目の単位を修得した者、全生徒が全科目を履修する	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式2)

授業科目等の概要

(教養・社会福祉専門課程介護福祉学科) 令和8年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			生活支援技術 B1	自立に向けた居住環境の整備・自立に向けた排泄の介護・ベッドメイキング	1前	30	1	○	△		○		○		
○			生活支援技術 B2	排泄の支援技術	1前	30	1	○	△		○		○		
○			生活支援技術 C1	自立に向けた移動の介護・運動、移動の支援技術（移動の介助）	1後	30	1	○	△		○		○		
○			生活支援技術 C2	安楽な体位に関する支援技術	1後	30	1	○	△		○		○		
○			生活支援技術 D1	障害に応じた生活支援技術・聴覚障害、言語機能障害につて・運動機能障害に応じた介護・食事姿勢環境支援技術・内部障害に応じた介護（心臓機能障害、腎臓機能障害、呼吸器機能障害・暴行直腸機能障害）・他職種の役割と協働	1後	30	1	○	△		○			○	
○			生活支援技術 D2	高度機能障害のある人と生活の理解・生活支援と環境整備支援技術・介護技術の展開・他職種の役割と協働連携・認知症のある人に応じた生活支援技術・認知症介護における生活支援の展開・事例にみる認知症に応じた生活支援技術	1後	30	1	○	△		○			○	
○			生活支援技術 E1	生活支援と介護予防・生活支援とリハビリテーション・生活支援と福祉用具・緊急対応の知識と技術・障害に応じた生活支援技術（知的障害・精神障害・発達障害・重複障害）	2後	30	1	○	△		○			○	
○			生活支援技術 E2	尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について修得する。	2後	30	1	○	△		○			○	
合計					8	240単位時間（ 8 単位）									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
必修科目の単位を修得した者、全生徒が全科目を履修する	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式2)

授業科目等の概要

(教養・社会福祉専門課程介護福祉学科) 令和8年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			介護過程Ⅰ	介護過程の目的、意義、役割・介護過程と論理的思考の技術・介護過程とエビデンスアプローチ	1後	30	1	○	△		○		○		
○			介護過程Ⅱ	介護過程とチームアプローチ（ケースカンファレンス・サービス担当者会議・介護過程とケアプラン・他職種との連携）	2前	30	1	○	△		○		○		
○			介護過程Ⅱ2	介護過程の展開（観察・アセスメント・計画立案・実践・評価）	2前	30	2	○	△		○		○		
○			介護過程Ⅲ	事例に基づく介護過程の展開（高齢者を対象とした介護過程の展開・障害者を対象とした介護過程の展開）	2通	60	1	○	△		○		○		
○			介護総合演習Ⅰ	介護実習の意義と目的・実習の進め方・注意点・実習先の理解・見学実習・見学実習報告会・実習記録の意義と目的・実習記録の書き方・報告、連絡、相談の意義と目的・報告連絡相談の練習・事例検討	1前	30	1			○	○		○		
○			介護総合演習Ⅱ	・実習の意義と目的・自己課題設定・実習記録の書き方・実習報告書の作成・実習報告会・介護過程の展開・在宅介護実習の意義と目的・在宅介護学習の自己課題設定	1後	30	1			○	○		○		
○			介護総合演習Ⅲ	事例に基づく介護過程の展開（高齢者を対象とした介護過程の展開・障害者を対象とした介護過程の展開）	2前	30	1			○	○		○		
合計			8 科目		240単位時間(8 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
必修科目の単位を修得した者、全生徒が全科目を履修する	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教養・社会福祉専門課程介護福祉学科) 令和8年度																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○				介護総合演習Ⅳ	実習Ⅱ—2に向けて(意義と目的・自己課題設定)・報告書の作成・実習報告会・事例検討・事例研究発表会	2後	30	1		○		○				
○				介護実習Ⅰ	施設の概要の理解・他職種との役割と連携について理解を深める。日常生活援助を通して、利用者の背景を知り、コミュニケーションを図り、利用者の理解を深める。日常生活上基本的な援助を、指導者のもとで日課に沿って学習する。 (訪問介護実習) 在宅利用者の背景を知り必要な援助を理解する。同行訪問を通して、個別利用者に必要な生活援助を行う。在宅利用者と周囲の人々との関係を理解する。在宅利用者利用している社会資源について知り、その活用の仕方を学ぶ。訪問介護に関する記録物について知る。他職種とのカンファレンスに参加し、連携の取り方医療の関わり方を学ぶ。	1前	90	2			○		○	○		○
○				介護実習Ⅱ—1	利用者を受け持つ・利用者の諸記録を読む。他職種から情報を得る。情報を分析し介護計画を立案する。意思の疎通が難しい利用者に対し、コミュニケーション手段を工夫する。利用者の日常生活の中での楽しみやレクリエーションの意義、位置づけを理解する。自助具工夫する。施設と地域の関わりを知る。施設で行う様々なサービスを知る。	1後	180	4			○		○	○		○
○				介護実習Ⅱ—2	受け持ち利用者の個別介護計画の立案、実践、評価を行う。カンファレンスを行い、介護過程についてスーパービジョンを受ける。今までの実習で不足していた知識・技術の習得を心掛ける。施設全体の動きに目を向けた上での個別介護を行う。	2前	180	4			○		○	○		○
○				こころとからだのしくみの理解Ⅰ	人間の欲求の基本的理解・基本的欲求・自己概念と尊厳・移動に関連したこころとからだのしくみ・日常生活に関連したこころとからだのしくみ・身支度に関連したこころとからだのしくみ	1前	60	4	○	△		○		○		
○				こころとからだのしくみの理解Ⅱ	人間の基本的欲求と清潔の保持・清潔ケアの構成要素・入浴清潔保持に関連したこころとからだのしくみ・食事に関連したこころとからだのしくみ・排泄に関連したこころとからだのしくみ・排泄ケアの構成要素	1前	30	2	○	△		○			○	
○				こころとからだのしくみの理解Ⅲ	睡眠に関連したこころとからだのしくみ・心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響・医療職との連携(睡眠)死にゆく人のこころとからだのしくみ・死の理解・医療職との連携(死)・呼吸困難時に行われる医療の実際と介護の連携及び家族との連携	2後	30	2	○	△		○		○		
○				発達と老化の理解	人間の成長と発達の基礎的理解・老化に伴うこころとからだの変化と日常生活・要介護による高齢者の心理	1通	60	4	○	△		○			○	
合計						8	科目		660単位時間(23単位)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
必修科目の単位を修得した者、全生徒が全科目を履修する	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教養・社会福祉専門課程介護福祉学科) 令和8年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			認知症の理解 I	認知症を取り巻く状況・医学的側面から見た認知症の基礎・認知症の人の特長的心理・行動の理解・認知症介護者の実態と介護支援サービス・認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	1後	30	2	○	△		○		○		
○			認知症の理解 II	認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活支援・地域におけるサポート体制・家族支援における連携と協働・認知症に関する行政の方針と施策	2前	30	2	○	△		○			○	
○			障害の理解 I	障害の基礎的理解・障害者福祉の基本的理念・障害の医学的側面の基礎知識・障害のある人の生活の理解・自立支援に向けての介護・身体障害の理解	1後	30	2	○	△		○			○	
○			障害の理解 II	障害のある人の生活（医学的、心理的理解及び生活上の理解・介護上の留意点）・障害のある人に対する介護の基本的視点・個別支援・社会資源の利用と開発・家族への支援・他職種との連携	2前	30	2	○	△		○			○	
○			医療的ケア I	尊厳と自立・介護実践に関する諸制度・介護福祉士の倫理・救急蘇生法」・介護実践における連携・介護における安全確保とリスクマネジメント・介護におけるチームコミュニケーション・滅菌と消毒・健康観察・急変状態・呼吸のしくみとはたらき	1後	18	1	○	△		○			○	
○			医療的ケア II	たんの吸引とは・人工呼吸器のしくみと吸引・吸引を受ける家族の気持ちと対応・呼吸器系の感染と予防・緊急を要する状態（症状）・急変・事故発生時の対応と事前対策・報告書の書き方・たんの吸引に用いる器具、器材・吸引の技術と留意点	2前	18	1	○	△		○			○	
○			医療的ケア III	消化吸収とよくある消化器の症状・経管栄養法のしくみと理解・経管栄養法上の留意点・経管栄養に関係する感染と予防・利用者や家族への対応・急変事故発生時の対応と事前対策・経管栄養の技術と留意点	2前	18	1	○	△		○			○	
○			医療的ケア IV	たんの吸引（手順の理解）・経管栄養（手順の理解）・救急蘇生法（手順の理解）・学習と演習の統合・技術試験	2後	21	2				○			○	
			就職ガイダンス	講演会・就職説明会等		20		○			○			○	
合計			9 科目		215単位時間(13 単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
必修科目の単位を修得した者、全生徒が全科目を履修する		1学年の学期区分	期
		1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式2)

授業科目等の概要

(教養・社会福祉専門課程介護福祉学科) 令和8年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
			オリエンテーション	オリエンテーション		6		○			○		○		
合計				1 科目											6単位時間(単位)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
必修科目の単位を修得した者、全生徒が全科目を履修する	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。